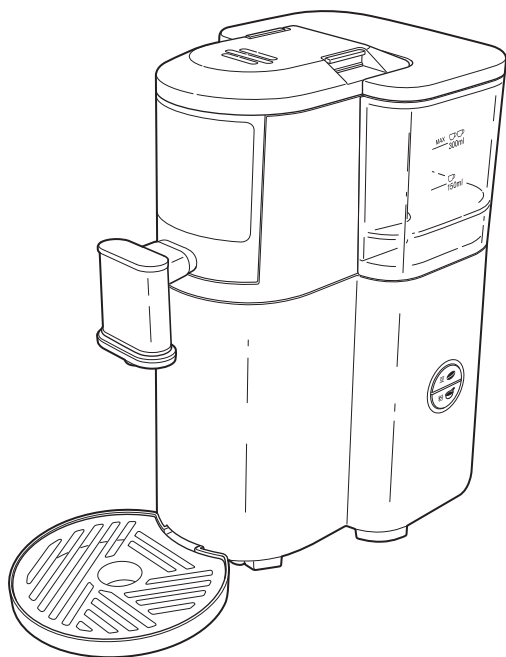


全自動コーヒーメーカー KKM-1001

取扱説明書 (保証書別途添付)

ご使用前に必ずお読みください。



目次

安全上のご注意	1~4
各部のなまえ	5
知っておいていただきたいこと	6
安全機能(ミルふた検知装置)について	6
運転停止状態について	6
給水目盛について	6
水もれ防止弁について	6
各部の取り付けかた・取り外しかた	7~8
はじめてご使用になる前に	9~10
コーヒーをいれる	11~14
付属の計量スプーンの分量について	11
コーヒー豆・コーヒー粉 給水量の目安	11
お手入れのしかた	15~16
故障かな?と思われたときは	17
仕様	18
別売部品について	19
アフターサービスについて	20
お客様の個人情報のお取り扱いについて	23
お客様相談窓口	23

このたびは、コイズミ 全自動コーヒーメーカーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。


なお、保証書は別途添付されています。お読みになられた後も、保証書とともにお使いになる方がいつでも見られるところに大切に保管してください。


●特に1~4ページの「安全上のご注意」を必ずお読みください。

安全上のご注意

※ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

※ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 **警告** 誤った取扱いをしたときに、死亡または重傷を負う可能性があるもの

 **注意** 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負ったり、物的損害の可能性のあるもの

絵表示の例



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

※お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

警告

■ 電源

●定格15A以上のコンセントを単独で使用する。また、延長コードを使用しない。
他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



●電源プラグは清潔にする。刃および刃の取付面にほこりが付着している場合は拭き取る。
ショート・火災の原因となります。

●電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。
感電・ショート・発火・発煙の原因となります。

●AC100V以外では使用しない。(日本国内専用)
火災・感電の原因となります。

●電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。
感電・ショート・発熱・発火の原因となります。



●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねて使用したり、重いものをのせたり、挟み込んだり、高温部に近づけたりしない。
火災・感電の原因となります。

●電源コードを本体に巻きつけない。
電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。



●ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。
感電やけがの原因となります。

警告

■ 取り扱い



- 改造はしない。修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理をしない。
火災・けが・感電の原因となります。
※故障したときは、コンセントから電源プラグを抜き、使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。



- 異常・故障時は直ちに使用を中止する。
(異常・故障例)
 - ・異常なおいが出たり、煙が出る。
 - ・触れるとビリビリと電気を感じる。
 - ・電源プラグ・電源コードが異常に熱くなる。
 - ・電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする。発煙・発火・感電の恐れがあります。
※すぐに電源プラグを抜いて、点検・修理を依頼してください。



- 取り扱いに不慣れな方や子供だけで使わせない。また、乳幼児の手が届くところで使用しない。
やけど・けが・感電の原因となります。
※取り扱いに不慣れな方やお子様をご使用されるときは、そばについてあげてください。
- 落としたり、衝撃を加えない。
感電・故障の原因となります。
- ミルふた検知装置を細い棒などで押さない。
回転部が回転し、けがをする恐れがあります。
- ミル付きバスケット、給水タンクを取り外した状態で運転しない。
やけど・けが・故障の原因となります。



- 本体を水につけたり、本体に水をかけたりしない。
感電・ショート・故障の原因となります。

■ 使用場所



- 火気の近くで使用しない。
火災の原因となります。
- ガスレンジやIHクッキングヒーターなどの上のせて使用しない。
火災の原因となります。
- 燃えやすいものや熱に弱いものの近くで使用しない。
火災の原因となります。



- 水のかかるところや、本体の底部がぬれるところで使用しない。
感電・ショート・故障の原因となります。

安全上のご注意

警告

■使用中や使用後



- 運転中や運転終了後しばらくは、蒸気口に触れたり、顔を近づけない。また、高温部に触れない。
やけどの原因となります。

注意

■電源



- 電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く。
感電・ショートの原因となることがあります。
- 電源スイッチが「OFF」になっていることを確かめてから、電源プラグを抜き差しする。
けがの原因となります。



- 使用時以外は必ず電源スイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜く。
やけど・けが・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因となります。

■取り扱い



- 給水タンクに水以外のもの（牛乳・紅茶・酒など）を入れて運転しない。
また、ミル付きバスケットにコーヒー豆・コーヒー粉以外のものを入れて運転しない。
異常動作によるやけど・けが・故障の原因となります。
- 給水タンクを本体に取り付けた状態で蛇口から直接水を入れない。
本体に水がかかり、故障の原因となります。
- 業務用として使用しない。
故障の原因となります。



- カッターに直接手を触れない。
けがの原因となります。

■使用場所



- 不安定なところで使用しない。
本体が傾いていると、すべり落ち、やけど・けがの原因となります。
- 壁や家具の近くで使用しない。
蒸気や熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因となります。
- 屋外で使用しない。
火災・故障の原因となります。

注意

■使用中や使用後



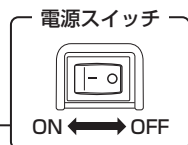
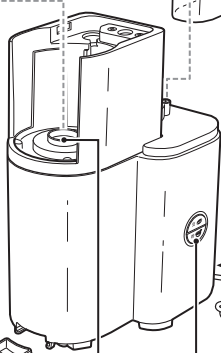
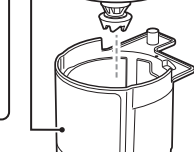
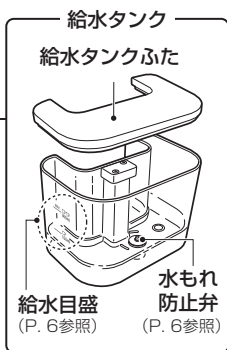
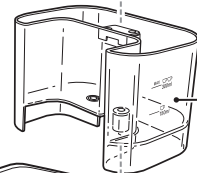
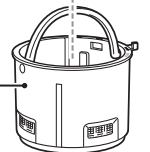
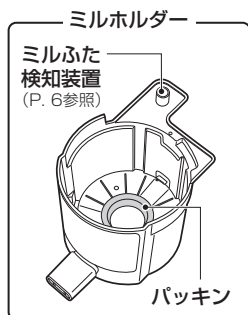
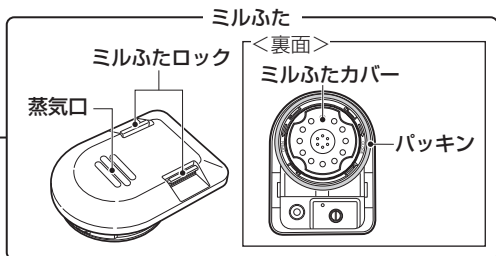
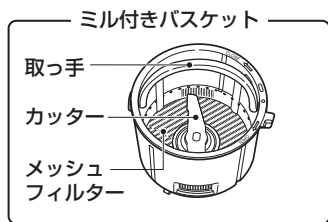
- 運転中にミルふた・給水タンクふたを開けたり、ノズルの伸縮部をスライドさせたり、各部の取り外しをしない。
やけどの原因となります。
- 運転中や運転終了直後に絶対に給水タンクに水を入れない。
蒸気や熱湯がふきだして、やけど・けがの原因となります。
- 運転中に移動させない。
やけど・けがの原因となります。
- お手入れの際、熱湯で洗ったり、食器洗い機を使って洗わない。また、食器乾燥機、食器洗い乾燥機を使って乾燥させない。
故障・破損の原因となります。
- 給水タンクの「MAX」線以上水を入れない。
ふきこぼれて、やけど・故障の原因となります。
- 空だきはしない。
故障・火災の原因となります。
- ミネラルウォーターなどミネラル成分（カルシウム・マグネシウム・鉄分など）を多く含む水は使用しない。
本体内部に水あかが付着し、故障の原因となります。



- お手入れや持ち運びは、必ず本体が冷めてから行う。
やけどの原因となります。
- お手入れ後は、必ずパッキンを確実に取り付ける。
パッキンがずれた状態で使用すると、水がもれたり、ふきこぼれてやけどや故障の原因となります。
- 続けてコーヒーをいれるときは、約10分間休ませ、運転停止状態から回復後に行う。
本体が熱いうちに給水タンクに水を入れたり、本体を動かしたりすると、蒸気や熱湯がふきだして、やけど・けがの原因となります。
- 運転終了後、コーヒー粉を放置せず早めに捨てる。
カビや雑菌が繁殖する原因となります。
- 持ち運びの際は、給水タンクを持たず、本体を両手で持つ。
給水タンクが外れて本体が落下し、やけど・けがの原因となります。

各部のなまえ

本体



<背面右下>



付属品

- 受け皿
 - 計量スプーン (P. 11 参照)
 - お手入れブラシ
 - 取扱説明書 (本書)
 - 保証書
-



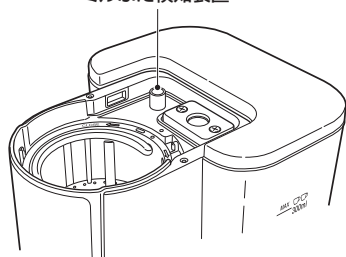
知っておいていただきたいこと

■安全機能（ミルふた検知装置）について

ミルふたを正しく取り付けないと、安全機能（ミルふた検知装置）の働きで、運転しないようになっています。

運転前に、ミルふたが確実に取り付けられていることを確認してください。（ミルふたの取り付けかたは、P. 7参照）

ミルふた検知装置



■運転停止状態について

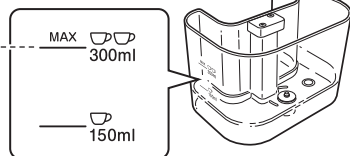
運転終了後約10分間は、ヒーターの熱を冷ますために運転停止状態になり、操作ボタンを押しても動作しません。（運転停止状態の時間は、使用環境により多少異なります。）

続けてコーヒーをいれるときは、約10分間休ませ、運転停止状態から回復後に行ってください。（P. 13参照）

■給水目盛について

- 「MAX」線以上水を入れしないでください。ふきこぼれてやけどや故障の原因となります。また、空だきはしないでください。故障・火災の原因となります。
- 水がコーヒー粉に吸収されるため、コーヒーの出来上がりの容量は、給水量より多少減少します。

「MAX」線以上入れない

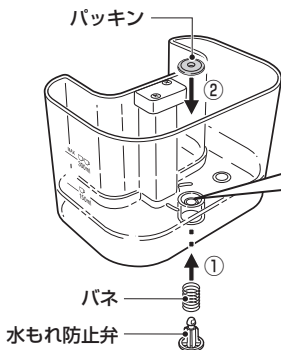


■水もれ防止弁について

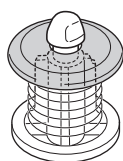
- 給水タンクの底部の水もれ防止弁の働きで、給水タンクを取り外しても水を入れても水がもれないしくみになっています。
- 水を入れた後、水もれ防止弁を押さないでください。水もれ防止弁が外れて水もれする恐れがあります。

水もれ防止弁が外れたときは

- ①水もれ防止弁にバネをつけた状態で、給水タンクの底に差し込みます。
- ②水もれ防止弁を底から押さえながら、給水タンクの内側からパッキンを取り付けます。



※パッキンは、水もれ防止弁の溝に取り付ける



<正しく取り付けられた状態>

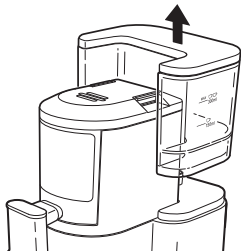
各部の取り付けかた・取り外しかた

※必ず電源スイッチを「OFF」にして電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行ってください。

給水タンク

取り外し

本体を支え、上方向に引き抜く。



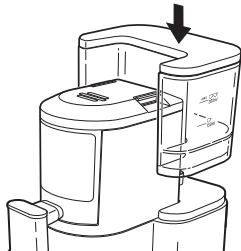
取り外しにくいときは

本体背面からミルふたを押さえながら、手前に引き上げるようにします。



取り付け

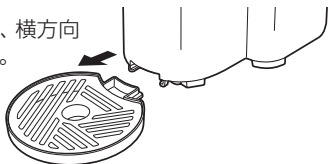
本体に真っ直ぐに差し込む。



受け皿

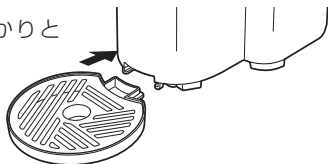
取り外し

本体を支え、横方向に引き抜く。



取り付け

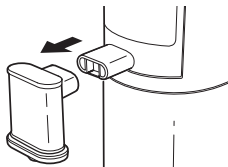
奥までしっかりと差し込む。



ノズル

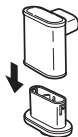
取り外し

本体を支え、横方向に引き抜く。



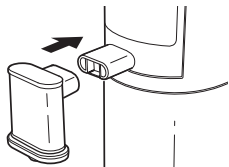
伸縮部

ノズルから引き抜く。



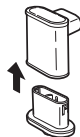
取り付け

奥までしっかりと差し込む。



伸縮部

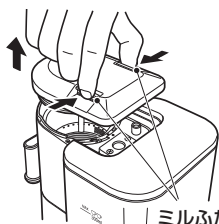
ノズルに差し込む。



ミルふた

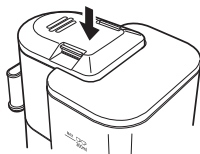
取り外し

本体を支え、ミルふたロックを押さえながら持ち上げる。



取り付け

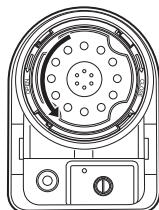
ミルホルダーにかぶせ、「カチッ」と音がするまで押さえる。



ミルふたカバー

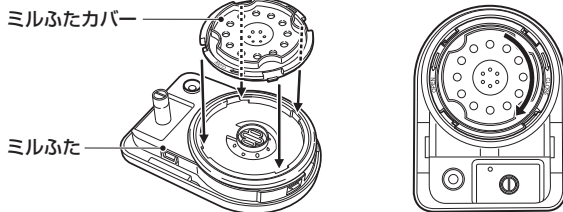
取り外し

矢印の方向に回して取り外す。



取り付け

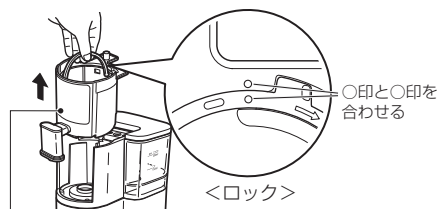
- ①ツメをミルふたの凹部に合わせてはめる。 ②矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す。



ミルホルダー／ミル付きバスケット

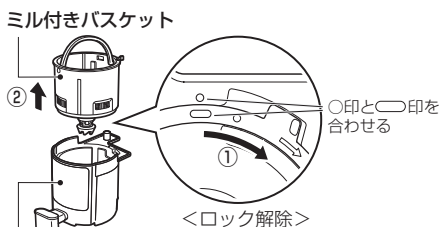
取り外し

- ①ミル付きバスケットの取っ手を持ち、本体を支え、上方向にミルホルダーごと引き抜く。
※ミル付きバスケットの○印がミルホルダーの○印に合っていることを確認してから引き抜いてください。



ミルホルダー
(ミル付きバスケット含む)

- ②ミル付きバスケットの取っ手を持ち、ミル付きバスケットの○印がミルホルダーの○印に合うまで回してロックを解除し、上方向に引き抜く。

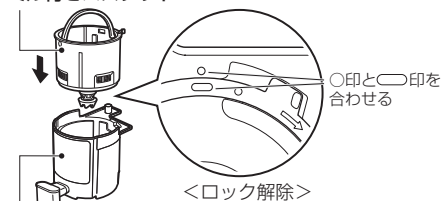


ミルホルダー

取り付け

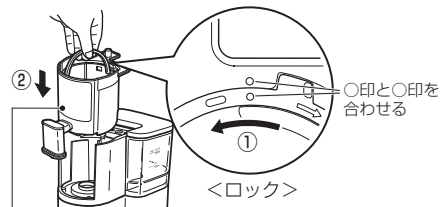
- ①ミル付きバスケットの○印をミルホルダーの○印に合わせて差し込む。

ミル付きバスケット



ミルホルダー

- ②ミル付きバスケットの○印がミルホルダーの○印に合うまで回してロックし、ミル付きバスケットを取り付けたミルホルダーを本体にしっかりと差し込む。



ミルホルダー
(ミル付きバスケット含む)

はじめてご使用になる前に

はじめてご使用になるときや、長期間ご使用されなかった場合、本体内部にほこりなどが付着している可能性があります。

以下の手順で本体内部を洗浄してからご使用ください。

※必ず電源スイッチを「OFF」にして電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

●各部の取り外しかた・取り付けかたは、P. 7～P. 8を参照してください。

1 各部を取り外して水洗いをし、水気を十分に拭き取ってから本体に取り付ける。

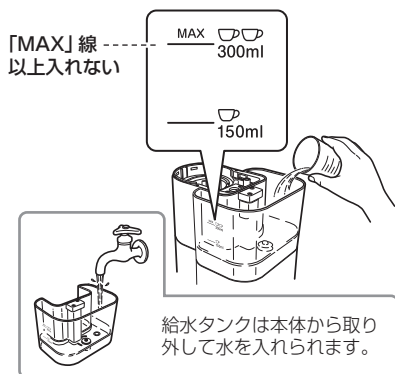
※ミルふたを正しく取り付けないと安全機能が働き、運転できません。(P. 7参照)

2 給水タンクに「MAX」線まで水を入れ、給水タンクふたを取り付ける。

●「MAX」線まで入れたときの水の容量は300mℓです。

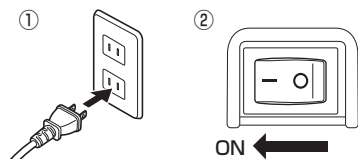
ご注意

- 「MAX」線以上水を入れない。
ふきこぼれて、やけどや故障の原因となります。
- 給水タンクを本体に取り付けた状態で蛇口から直接水を入れない。
本体に水がかかり、故障の原因となります。



3 電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを「ON」にする。

●電子音が「ピーッ」と鳴り、操作部のランプがオレンジ色に点灯して、スタンバイ状態になります。

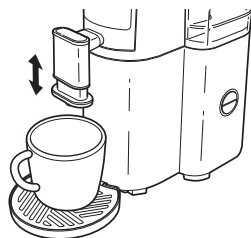


4 受け皿の上にお手持ちの耐熱のカップをセットする。

●ご使用になるカップの高さに合わせて、ノズルの伸縮部をスライドさせてください。

ご注意

- 給水タンクに入れた水の容量（「MAX」線まで：300mℓ）に合わせたカップを使用する。



5 ドリップボタンを押す。

- 電子音が「ピッ」と鳴り、操作部のランプが青色に点灯します。
- 自動的にドリップを開始します。



ドリップボタン

一時停止するとき

ドリップボタンを押す。

- 電子音が「ピッ」と鳴り、操作部のランプが青色とオレンジ色に交互に点滅します。再開するときは、再度ドリップボタンを押します。
- ※約3分間操作しないと、ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

中止するとき

一時停止後、ドリップボタンを3秒以上長押しする。

- 操作部のランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

ドリップが終了すると

- 電子音が「ピーッ」と3回鳴り、操作部のランプが消灯します。

運転停止状態について

※運転終了後約10分間は、ヒーターの熱を冷ますために運転停止状態になり、操作ボタンを押しても動作しません。(運転停止状態の時間は、使用環境により多少異なります。)

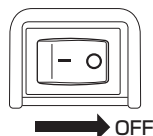
運転停止状態から回復すると、電子音が「ピーッ」と鳴り、操作部のランプがオレンジ色に点灯して、スタンバイ状態になります。

ご注意

- 運転中や運転終了後しばらくは、蒸気口に触れたり、顔を近づけない。また、高温部に触れない。
やけどの原因となります。
- 運転中にミルふた・給水タンクふたを開けたり、ノズルの伸縮部をスライドさせたり、各部の取り外しをしない。
やけどの原因となります。
- 運転中や運転終了直後に絶対に給水タンクに水を入れない。
蒸気や熱湯がふきだして、やけど・けがの原因となります。

6 カップを取り、電源スイッチを「OFF」にする。

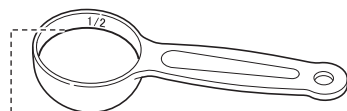
- ※ドリップしたお湯は捨ててください。
- ※においが気になるときは、運転停止状態から回復後(上記参照)、同じ手順で繰り返し洗浄を行ってください。



コーヒーをいれる

■付属の計量スプーンの分量について

付属の計量スプーン1杯の分量は、コーヒー豆は約6g、コーヒー粉は約8g(すり切り)です。
(コーヒー豆は種類や焙煎度合いによって重さが多少異なります。)



半分の位置に印がついています。

■コーヒー豆・コーヒー粉・給水量の目安

カップ数	コーヒー豆	コーヒー粉	給水量	出来上がり量	所要時間
1杯	約12g (付属の計量スプーン2杯)	約12g (付属の計量スプーン1.5杯)	150mℓ	約125mℓ	コーヒー豆から 約2分30秒 …… コーヒー粉から 約2分25秒
2杯	約18g (付属の計量スプーン3杯)	約20g (付属の計量スプーン2.5杯)	300mℓ	約260mℓ	コーヒー豆から 約3分45秒 …… コーヒー粉から 約3分40秒

- 出来上がり量は、水がコーヒー粉に吸収されるため、給水量よりも多少減少します。
- コーヒー豆やコーヒー粉の量は、お好みにより加減してください。
※コーヒー豆やコーヒー粉を入れすぎると、コーヒーがあふれ出し、故障の原因となります。
本製品で使用できる量は、コーヒー豆・コーヒー粉どちらも約24gまでです。
- コーヒー粉は、粗挽き、または中挽きのもをご使用ください。
※細挽きを使用すると、コーヒー粉が混入したり、メッシュフィルターが詰まって本体からコーヒーがあふれる恐れがあります。

※必ず電源スイッチを「OFF」にして電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行ってください。

※はじめてご使用になるときや、長期間で使用されなかった場合は、本体内部を洗浄してください。

(P. 9 ~ P. 10 参照)

●各部の取り外しかた・取り付けかたは、P. 7 ~ P. 8を参照してください。

1 受け皿を取り付ける。

2 ミルふたを取り外してコーヒー豆、または コーヒー粉を入れ、ミルふたを取り付ける。

※ミルふたを正しく取り付けないと安全機能が働き、運転できません。(P. 7参照)



ご注意

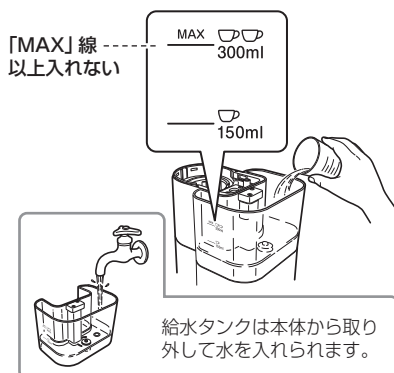
- カッターに手を触れない。
けがの原因となります。
- コーヒー豆やコーヒー粉は片側に片寄らないようにできるだけ平らに入れる。
また、湿ったコーヒー豆を使用しない。
コーヒー豆がうまく挽けなかったり、うまくドリップできない原因となります。

3 給水タンクに水を入れ、給水タンクふた を取り付ける。

●入れる水の容量は、P. 11を参照してください。

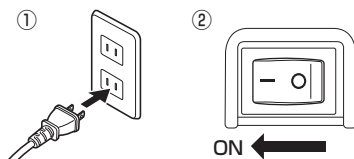
ご注意

- 「MAX」線以上水を入れない。
ふきこぼれて、やけどや故障の原因となります。
- 給水タンクを本体に取り付けた状態で蛇口から直接水を入れない。
本体に水がかかり、故障の原因となります。



4 電源プラグをコンセントに差し込み、電源 スイッチを「ON」にする。

●電子音が「ピーツ」と鳴り、操作部のランプがオレンジ色に点灯して、スタンバイ状態になります。

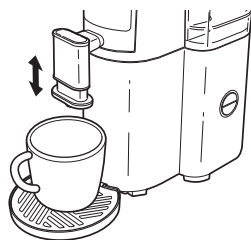


5 受け皿の上にお手持ちの耐熱のカップをセットする。

●ご使用になるカップの高さに合わせて、ノズルの伸縮部をスライドさせてください。

ご注意

- 給水タンクに入れた水の容量に合わせたカップを使用する。



コーヒーをいれる

6

コーヒー豆の場合

ミル+ドリップボタンを押す。



- ミルが動作し、操作部のランプが青色に点滅します。
- 約6秒後にミルが停止し、操作部のランプが青色に点灯して、自動的にドリップを開始します。

一時停止するとき

ミル+ドリップボタンを押す。

- 電子音が「ピッ」と鳴り、操作部のランプが青色とオレンジ色に交互に点滅します。再開するときは、再度ミル+ドリップボタンを押します。

※約3分間操作しないと、ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

中止するとき

一時停止後、ミル+ドリップボタンを3秒以上長押しする。

- 操作部のランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

コーヒー粉の場合

ドリップボタンを押す。



- 電子音が「ピッ」と鳴り、操作部のランプが青色に点灯します。
- 自動的にドリップを開始します。

一時停止するとき

ドリップボタンを押す。

- 電子音が「ピッ」と鳴り、操作部のランプが青色とオレンジ色に交互に点滅します。再開するときは、再度ドリップボタンを押します。

※約3分間操作しないと、ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

中止するとき

一時停止後、ドリップボタンを3秒以上長押しする。

- 操作部のランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

ドリップが終了すると ●電子音が「ピーッ」と3回鳴り、操作部のランプが消灯します。

運転停止状態について

※運転終了後約10分間は、ヒーターの熱を冷ますために運転停止状態になり、操作ボタンを押しても動作しません。(運転停止状態の時間は、使用環境により多少異なります。)

運転停止状態から回復すると、電子音が「ピーッ」と鳴り、操作部のランプがオレンジ色に点灯して、スタンバイ状態になります。

ご注意

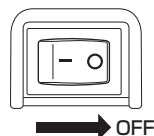
- 運転中や運転終了後しばらくは、蒸気口に触れたり、顔を近づけない。また、高温部に触れない。
やけどの原因となります。
- 運転中にミルふた・給水タンクふたを開けたり、ノズルの伸縮部をスライドさせたり、各部の取り外しをしない。
やけどの原因となります。
- 運転中や運転終了直後に絶対に給水タンクに水を入れない。
蒸気や熱湯がふきだして、やけど・けがの原因となります。

7 カップを取り、電源スイッチを「OFF」にする。

ご注意

- ノズルからコーヒーが出なくなってからカップを取る。

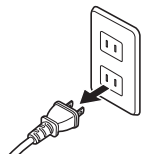
コーヒー豆・コーヒー粉の量や種類によっては、終了音が鳴った後も滴下することがあり、やけどの原因となります。



※続けてコーヒーをいれるときは、運転停止状態から回復後（前ページ参照）、同じ手順で行ってください。

使用後

1 電源プラグを抜く。

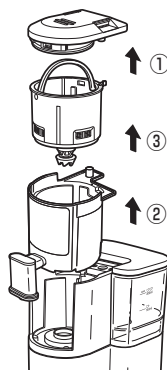


2 本体が冷めてから、コーヒー粉を捨てる。

- ①ミルふたを取り外す。
- ②ミルホルダー（ミル付きバスケット含む）を取り外す。
- ③ミルホルダーからミル付きバスケットを取り外す。
- ④ミル付きバスケット内のコーヒー粉を水を切って捨てる。

ご注意

- コーヒー粉は放置せず早めに捨てる。
カビや雑菌が繁殖する原因となります。



3 お手入れをする。

※ご使用のたびに、必ず各部のお手入れをしてください。（P. 15～P. 16参照）

お手入れのしかた

※必ず電源スイッチを「OFF」にして電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行ってください。

※ご使用のたびに、各部のお手入れをしてください。

●各部の取り外しかた・取り付けかたは、P. 7～P. 8を参照してください。

ミルふた・ミルふたカバー・ミルホルダー・給水タンク・ノズル・受け皿

●コーヒー粉が付着している場合は付属のお手入れブラシで取り除き、台所用中性洗剤とやわらかいスポンジでよく洗ってください。

●ミルふた・ミルホルダーは、パッキンも取り外して洗ってください。（下記参照）

●洗ったあとは水気を拭き取り、十分に乾燥させてから取り付けてください。

ご注意

●次のものは使用しない。

・ベンジン、シンナー、漂白剤、酸類

・みがき粉、クレンザー

・タワシ、金属タワシ

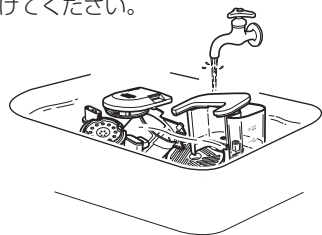
破損・変色の原因となります。

●熱湯で洗ったり、食器洗い機を使用して洗わない。

変形や破損の原因となります。

●お手入れ後は、必ずパッキンを確実に取り付ける。

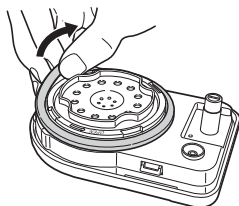
パッキンがずれた状態で使用すると、水がもれたり、ふきこぼれてやけど・故障の原因となります。



ミルふたのパッキン

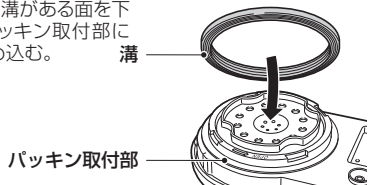
取り外しかた

パッキン取付部からめくるようにして外す。

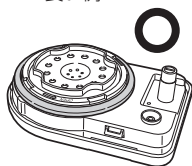


取り付けかた

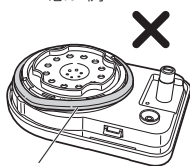
パッキンの溝がある面を下にして、パッキン取付部に確実にはめ込む。



<良い例>



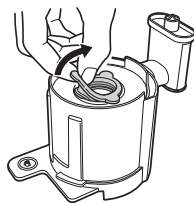
<悪い例>



ミルホルダーのパッキン

取り外しかた

底面を上に向け、パッキン取付部からめくるようにして外す。



取り付けかた

パッキンの突起がある面を上にして、パッキン取付部に確実にはめ込む。



<良い例>



<悪い例>

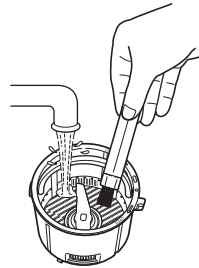


ミル付きバスケット

- メッシュフィルターの網目に詰まったコーヒー粉は、付属のお手入れブラシを使って水で洗い流してください。
- 台所用中性洗剤とやわらかいスポンジでよく洗ってください。
- 洗った後、水気を拭き取り、十分に乾燥させてから取り付けてください。

ご注意

- カッターに直接手を触れない。
けがの原因となります。



本体外側

やわらかい布で拭いてください。
汚れがおちにくい場合は、中性洗剤か水をふくませた布で拭き取った後、乾いた布でもう一度拭いてください。

ご注意

- 本体を水につけたり、本体に水をかけたりしない。
感電・ショート・故障の原因となります。



故障かな？と思われたときは

修理を依頼される前に、以下のことをご確認ください。

こんなとき	調べるところ	処置のしかた	参照ページ
操作ボタンを 押しでも動かない	電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。	9 12
	電源スイッチが「OFF」になっていませんか？	電源スイッチを「ON」にしてください。	9 12
	ミルふたが正しく取り付けられていますか？	ミルふたを正しく取り付けないと安全機能が動き、運転できません。「カチッ」と音がするまで押さえ、確実に取り付けてください。	7
	運転終了直後ではありませんか？	運転終了後約10分間は、ヒーターの熱を冷ますために運転停止状態となり、動作しません。運転停止状態から回復後、再度操作ボタンを押してください。	6
コーヒーが ドリップされない	給水タンクに水が入っていますか？	給水タンクに、作るコーヒーの容量に応じた水を入れてください。	11～12
	コーヒー豆、またはコーヒー粉が入っていますか？	作るコーヒーの容量に応じたコーヒー豆、またはコーヒー粉を入れてください。	11～12
	ミル付きバスケットのメッシュフィルターがコーヒー粉で目詰まりしていませんか？	メッシュフィルターに詰まったコーヒー粉を付属のお手入れブラシで取り除いてください。	16
コーヒー豆が うまくひけない	コーヒー豆が片側に片寄っていませんか？	コーヒー豆をできるだけ平らに入れてください。	—
	湿ったコーヒー豆を使用していませんか？	乾燥したコーヒー豆をご使用ください。	—
ドリップ時間が 長い	ミル付きバスケットのメッシュフィルターがコーヒー粉で目詰まりしていませんか？	メッシュフィルターに詰まったコーヒー粉を付属のお手入れブラシで取り除いてください。	16
	細挽きのコーヒー粉を使用していませんか？	粗挽き、または中挽きのコーヒー粉をご使用ください。	—
水がもれる	給水タンクに水を入れ過ぎていませんか？	水を「MAX」線以上入れないでください。	6
	給水タンク・ミルふた・ミルホルダー・ミル付きバスケットは正しく取り付けられていますか？	各部を正しく取り付けてください。	7～8
	ミルふた・ミルホルダーのパッキンが正しく取り付けられていますか？	各パッキンを正しく取り付けてください。	15
	コーヒー豆、またはコーヒー粉を入れ過ぎていませんか？	作るコーヒーの容量に応じたコーヒー豆、またはコーヒー粉を入れてください。	11
	細挽きのコーヒー粉を使用していませんか？	粗挽き、または中挽きのコーヒー粉をご使用ください。	—

仕様

電 源	AC100V 50/60Hz
消 費 電 力	600W
定 格 容 量	300mℓ
寸 法	約 142 (幅) × 183 (奥行) × 258 (高さ) mm (受け皿含まず)
質 量	約 1.7kg (受け皿含まず)
電源コードの長さ	約 1.5m
抽 出 方 式	ドリップ式
付 属 品	受け皿、計量スプーン、お手入れブラシ、取扱説明書 (本書)、保証書

別売部品について

別売部品を依頼される場合には、お買い上げの販売店か、小泉成器株式会社「部品センター」にお問い合わせください。

名 称	型 番
ミルふた (パッキンなし)	KKM-001
ミル付きバスケット	KKM-002
ミルホルダー (パッキンなし)	KKM-003
パッキン (ミルふた用×1、ミルホルダー用×1)	KKM-004
給水タンク (ふた付き)	KKM-005
ノズル	KKM-006
受け皿	KKM-007
計量スプーン	KKM-008
お手入れブラシ	KKM-009

アフターサービスについて

1. 保証書

- 保証書は別途添付されています。
保証書はお買い上げの販売店で「販売店名・お買い上げ日」などの記入をご確認のうえ、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

2. 修理を依頼される時


- 保証期間中は
商品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。保証の記載内容により無料修理いたします。
- 保証期間が過ぎているときは
お買い上げの販売店にご相談ください。修理により使用できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

3. 補修用性能部品の保有期間

- 全自動コーヒーマーカーの補修用性能部品の保有期間は製造打切後5年です。
補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

4. アフターサービスについてご不明の場合

- アフターサービスについてご不明の場合には、お買い上げの販売店か、小泉成器株式会社「修理センター」にお問い合わせください。

愛情点検		★長年ご使用の全自動コーヒーマーカーの点検を！	
	ご使用の際このようなことはありませんか？	<ul style="list-style-type: none">●電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。●電源コードを折り曲げると通電したり、しなかつたりする。●異常なおい気したり、煙が出る。●本体が変形したり異常に熱い。●その他の異常や故障がある。	ご使用中 止 このような症状の時は、故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店にご相談ください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

お受けしましたお客様の個人情報は当社個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。また、お客様の同意がない限り、業務委託をする場合及び法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示は行ないません。

〈利用目的〉

お受けしました個人情報は、商品・サービスに関わること、お問い合わせ及び修理対応のみを目的として使用させていただきます。

尚、この目的のために小泉成器株式会社及び関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

〈業務委託の場合〉

上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を実施させるとともに適切な管理・監督をいたします。

お客様相談窓口

この商品に関するご意見・ご質問については下記へお寄せください。

ご意見・ご質問について

お客様相談窓口



ナビダイヤル
(全国共通番号)

0570 (07) 5555

■IP電話などからご利用いただけない場合

〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号 TEL.06 (6262) 3561 FAX.06 (6268) 1432

修理に関するお問い合わせ

東日本修理センター



ナビダイヤル
(全国共通番号)

0570 (05) 8888

■IP電話などからご利用いただけない場合

〒344-0127 埼玉県春日部市水角1190 TEL.048 (718) 3340 FAX.048 (718) 3350

西日本修理センター



ナビダイヤル
(全国共通番号)

0570 (05) 8888

■IP電話などからご利用いただけない場合

〒559-0033 大阪市住之江区南港中1丁目3番98号 TEL.06 (6613) 3145 FAX.06 (6613) 3196

部品に関するお問い合わせ

部品センター



ナビダイヤル
(全国共通番号)

0570 (00) 3211

■IP電話などからご利用いただけない場合

〒559-0033 大阪市住之江区南港中1丁目3番98号 TEL.06 (6613) 3211 FAX.06 (6613) 3299

小泉成器株式会社

〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号
TEL.06 (6262) 3561 FAX.06 (6268) 1432

受付時間：平日9：00～17：30
(土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く)

2017年12月現在(所在地、電話番号などについては変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います。)